

お問い合わせ先

第十管区海上保安本部海洋情報部  
海洋調査課

海洋調査課長 淵田 晃一

TEL099-250-9800(内線 2530)



平成28年8月3日  
第十管区海上保安部

## 自律型海洋観測装置(AOV)によるハイテクな海洋観測を開始 ～クリーンでエコな長期観測によるリアルタイム情報提供！～

今年度から、「自律型海洋観測装置(AOV)(注)」を導入した海洋観測を開始します。4つの管区(七、八、十、十一管区)に導入され、複数台同時に使用することで、日本で初めて気象・海象情報を網羅的に観測することが可能となります。また、この観測データはホームページ上において、リアルタイムに提供いたします。“海の今”をどこでも誰でも把握することができ、さらなる海難の未然防止や経済的で安全な航海が可能となります。

(注)AOV: Autonomous Ocean Vehicle

### 1. 観測のねらい

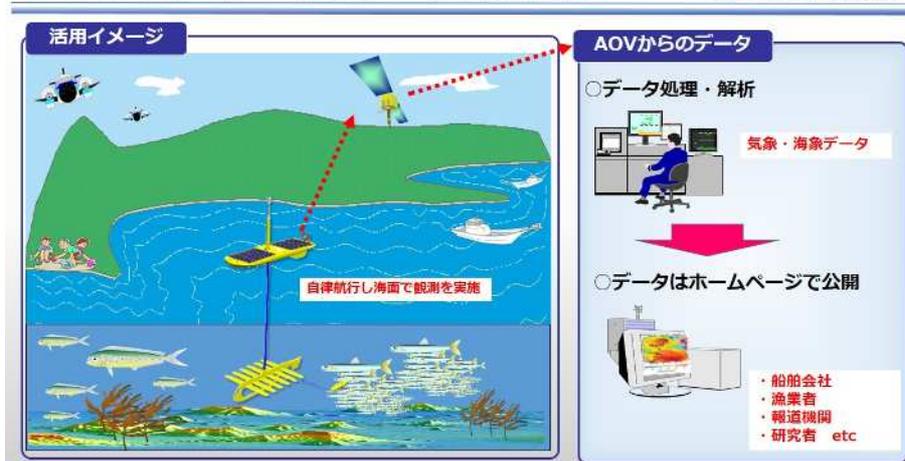
船舶の運航や漁業、マリレジャーなどにおいて、海上での安全を確保するには、海況、とりわけ流れ、風、波浪の様子を把握することが重要ですが、陸上で実施する観測と違い、海洋では常に観測データが不足している状況です。

そのため、当本部では上記により導入される AOV により、トカラ群島付近の海象・気象情報を観測し、観測結果をリアルタイムにホームページで提供いたします。それにより、海の流れ、海水温や波浪、海上の風や気温、気圧といった“海の今”の情報を人が現地に行くことなく把握可能となり、海難の未然防止や経済的で安全な航海に寄与することが期待されます。なお、観測データは10月中旬頃から以下のホームページで提供していく予定です。

[WWW1.kaiho.mlit.go.jp/KAN10/kaisyo/aov/index.html](http://WWW1.kaiho.mlit.go.jp/KAN10/kaisyo/aov/index.html)

### AOV観測イメージとデータ公開方法

JCG 海上保安庁

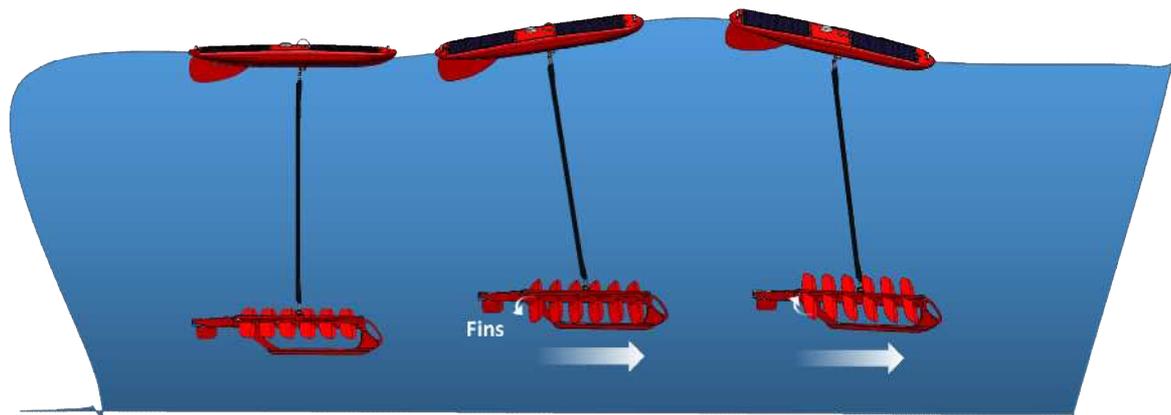


## 2. AOVとは

AOV(Autonomous Ocean Vehicle)は、波の上下動を動力源として移動し、観測機器や通信に使用する電力は太陽光発電から供給するため、このような名称(Autonomous(自律を意味する))としています。これらの特徴から、これまで船でしかできなかった観測を、生物や環境への影響がなく、かつ荒天時も含め長期に行うことができます。

また、AOV は陸上から遠隔操作や観測データの転送を衛星通信により可能としており、24時間リアルタイムに気象・海象データを得ることができます。

### AOV 移動原理イメージ



### 仕様

・フロート寸法	305cm × 81cm × 23cm
・水中グライダー寸法	213cm × 142cm × 21cm
・重量	約 150kg
・観測項目	海潮流、水温、塩分、波浪 潮位、気温、気圧、風向風速
・安全対策	標識灯(LED発光) レーダーリフレクター 船舶接近時自動回避 陸上からの衛星を通じた監視
・平均移動速度	約 1.3Kn (約 2.4km/h)

### AOV 観測の様子



第十管区海上保安本部  
愛称:「きびなご」